明 細 書

ワイパーブレードおよびその製造方法

技術分野

本発明は、ワイパーブレードおよびその製造方法に関し、とくに撥水処理を施したガラスなどの表面拭き取り性に優れたワイパーブレードおよびその製造方法に関する。

背景技術

本発明は、ワイパーブレードおよびその製造方法に関し、とくに撥水処理を施したガラスなどの表面拭き取り性に優れたワイパーブレードおよびその製造方法に関する。

自動車、電車などに使用される車両用ワイパーは、通常ワイパーブレード部分がガラス表面に摺接することにより、運転席の視界を確保している。このため、ワイパーブレードは、柔軟性や復元性が高いこと、耐水性や耐候性、耐摩耗性などの耐久性に優れていること、ばたばたと動くようなビビリ振動がなく拭き取り性能に優れていることなどが要求されている。

従来、このような要求特性を満たすため、ハロゲン化処理にて表面を硬化して表面すべり性や耐摩耗性を付与したゴム材料がワイパーブレード材として多用されていた。さらに、表面すべり性や耐摩耗性などの特性を改善するために、二硫化モリブデンやグラファイトが混合されたバインダーを表面に塗布したワイパーブレード（特開昭 55-113545号公報）、ポリフッ化ビニリデンやポリ塩化ビニル、ポリウレタンなどの被膜をつけたワイパーブレード（特開平 5-97015号公報）等が知られている。

また、シリコーンゴムおよび固体潤滑剤を含有するゴム、プラスチックの低摩擦、高耐摩耗用樹脂被覆材も知られている（特開平 8-48800号公報）。

しかしながら、単にハロゲン化処理を施したワイパーブレードは、十分なすべり性が得られず、とくにワックスなどが付着したガラス面ではワイパーブレードのすべりが悪く、ビビリ振動を起こし、拭き取り性が悪くなる。ハ

ロゲン化処理の程度を高めるとワイパーブレードの表面に亀裂が入りやすくなり拭き筋が残ってしまうという問題がある。

また、バインダーを表面に塗布したワイパーブレード（特開昭 55-113545号公報）にあっては、ビビリ振動がなく拭き取り性能に優れているのは初期のみであって、長期間使用すると表面に塗布したバインダーが剥がれてしまい、ビビリ振動を起こし、拭き取り性が悪くなるという問題がある。

さらに、被膜をつけたワイパーブレード（特開平 5-97015号公報や特開平 8-48800号公報）は、清浄なガラス面に対しては効果を示すが、ワックスや埃、砂などが付着したガラス面や、雨滴をはじくように撥水処理を施したガラス面に対しては、ビビリ振動を起こし、拭き取り性が悪くなるという問題がある。

このように、従来のワイパーブレードは耐久性や拭き取り性に劣り、とくに撥水処理を施したガラス表面に対する拭き取り性が悪くなるという問題がある。

本発明は、このような問題に対処するためになされたもので、柔軟性や復元性が高く、耐水性や耐候性、耐摩耗性などの耐久性に優れ、どのようなガラス表面に対してもビビリ振動がなく拭き取り性能に優れていると共に、その性能が長期間維持することができるワイパーブレードおよびその製造方法を提供することを目的とする。

発明の開示

本発明に係るワイパーブレードは、ゴム弾性体よりなるブレード本体と、この本体表面に、分子内に反応性基を有するフッ素系樹脂と、このフッ素系樹脂の反応性基と反応性を有する硬化剤とからなる表面被覆層を有するワイパーブレードであって、表面被覆層は、ブレード本体の両側面のみに形成されてなることを特徴とする。

また、表面被覆層が分子内に反応性基を有するフッ素系樹脂 100重量部に対して固体潤滑材 10 ～110 重量部配合してなることを特徴とする。

本発明に係る他のワイパーブレードは、ゴム弾性体よりなるブレード本体と、この本体表面に、分子内に反応性基を有するフッ素系樹脂と、このフッ

素系樹脂の反応性基と反応性を有する硬化剤とからなる表面被覆層を有するワイパーブレードであって、表面被覆層は、分子内に反応性基を有するフッ素系樹脂 100重量部に対して固体潤滑材 10 ～110 重量部配合してなることを特徴とする。

上述のワイパーブレードは、フッ素系樹脂の反応性基が水酸基であり、硬化剤がイソシアネート化合物およびメラミン樹脂類の少なくとも一つであることを特徴とする。

また、表面被覆層が、四フッ化エチレン樹脂を含有し、および／または有機ケイ素系弾性体を含有してなることを特徴とする。さらに、固体潤滑材が、グラファイトであることを特徴とする。

また、表面被覆層が、少なくとも 1層の撥水処理を施した透光体表面と摺接することを特徴とする。

本発明に係るワイパーブレードの製造方法は、ワイパーブレードの幅方向に複数個連続してブレード本体を形成する工程と、このブレード本体の表面に表面被覆層を形成する工程と、この表面被覆層が形成されたブレード本体をワイパーブレードの長さ方向に平行に切断する工程とにより、ブレード本体の両側面のみに表面被覆層を有するワイパーブレードを製造することを特徴とする。ここで、所定の厚さを有するワイパーブレードの長辺部分を長さ方向と、短辺部分を幅方向とする。

この方法により、エッヂ精度を高めてブレード本体の両側面のみに表面被覆層を形成することができる。

本発明に係るワイパーブレードの両側面とは、ワイパー作動時に少なくともガラス表面と摺接する面をいい、この両側面のみに表面被覆層を有するとは、表面被覆層がガラス表面と摺接する両側面に形成され、ワイパーブレード先端面には表面被覆層がないことをいう。

ワイパーブレードをこのような構造にすると共に、表面被覆層を分子内に水酸基を有するフッ素系樹脂と、この水酸基と反応性を有する硬化剤とからなる層とすることにより、表面被覆層がゴム弾性体よりなるブレード本体の表面と強固に密着しブレードの耐久性を著しく改善する。またフッ素系樹脂 100重量部に対して固体潤滑材 10 ～110 重量部含有する表面被覆層とする

ことにより、少なくとも 1層の撥水処理を施した透光体表面、たとえばガラス表面に対して優れた拭き取り性や耐久性を得ることができる。さらに、四フッ化エチレン樹脂や有機ケイ素系弾性体を含有することにより、表面被覆層の耐摩耗性やすべり性がさらに向上する。

また、とくに固体潤滑材をフッ素系樹脂 100重量部に対して 10 ～110 重量部含有する表面被覆層とすることにより、ワイパーブレード先端面に表面被覆層を設けた場合であっても、撥水処理を施したガラス表面等に対して優れた拭き取り性や耐久性を得ることができる。

さらに、固体潤滑材がグラファイトであると上述の特性がより向上する。

図面の簡単な説明

図１は、ワイパーブレードの断面図である。

図２Ａおよび図２Ｂは、ワイパーブレード製造方法の一例を示す図である。

図３は、摩擦係数と摩耗量を測定するための概要図である。

図４は、実施例７により得られるワイパーブレードの断面図である。

発明を実施するための最良の形態

本発明に係るワイパーブレード本体を形成するゴム弾性体は、ワイパーブレード作動時において、ゴム弾性を示す物体ならばとくに制限なく使用することができる。具体的には、天然ゴム（ＮＲ）、イソプレンゴム（ＩＲ）、スチレンブタジエンゴム（ＳＢＲ）、ブタジエンゴム（ＢＲ）、クロロプレンゴム（ＣＲ）、アクリロニトリルブタジエンゴム（ＮＢＲ）、エチレンプロピレン系ゴム等を挙げることができる。とくに撥水処理を施したガラス面に対してビビリ振動を起こすことなく、良好な拭き取り性を示すゴム弾性体としては、天然ゴム（ＮＲ）およびスチレンブタジエンゴム（ＳＢＲ）が好ましい。

これらゴム弾性体は、ＪＩＳ　Ｋ　６３０１　に準じて測定されたゴム硬度が 50 ～ 80 ° であることがワイパーブレードの柔軟性や復元性を維持する上で好ましい。さらに、耐候性を向上させるために、オゾン吸収剤、老化防止剤、ワックスなどの滑剤等が配合されていてもよい。

また、表面被覆層との密着性を向上させる目的で、ゴム弾性体の表面を、たとえば、ハロゲン化処理、低温プラズマ処理、コロナ放電処理、紫外線照射処理などの表面処理手段により処理することが好ましい。本発明に係る表面被覆層との密着性向上に関しては、とくにハロゲン化処理が好ましく、処理方法としては、塩素化処理、臭素化処理、ヨウ素化処理、フッ素化処理などを挙げることができる。

本発明の表面被覆層を構成する分子内に反応性基を有するフッ素系樹脂は、フッ素系樹脂の側鎖または分子鎖末端に反応性基を有するもので、反応性基としては、水酸基（-OH）、イソシアネート基（-NCO）、カルボキシル基（-COOH）、－ＮＨＲ基（ここでＲは、水素、アルキル基、もしくはアルコシキル基）、メルカプト基（-SH）、エポキシ基、アセトキシ基（$-COOCH_3$）、スルホン酸基（$-SO_3H$）等を挙げることができる。本発明にあっては、とくに水酸基（-OH）を分子内に有するフッ素系樹脂が好ましく、具体的にはフルオロオレフィン単位とビニルエーテル単位とからなる共重合体であって、ビニルエーテル単位に水酸基を有するフッ素系樹脂が好適である。

また、$-C_xF_{2x}-O-$（ここで、x は 1～4 の整数）を主要構造単位とする平均分子量約 1000 ～10000 程度の重合体の側鎖または分子鎖末端に上述の反応性基を有するフッ素系樹脂を使用することもできる。

分子内に反応性基を有するフッ素系樹脂と反応する硬化剤としては、フッ素系樹脂の反応性基と反応する官能基を有する硬化剤であれば使用することができる。とくに反応性基が水酸基である場合は、イソシアネート基（-NCO）や－ＮＨＲ基を有する硬化剤が好ましい。これらは単独でも混合物としても使用することができる。

イソシアネート基（-NCO）を有する硬化剤としては、脂肪族基や脂環族基、芳香族基にイソシアネート基が 2個以上結合しているポリイソシアネート類を挙げることができる。具体的には、ヘキサメチレンジイソシアネート、フェニレンジイソシアネート、トリレンジイソシアネート、ジフェニルメタンジイソシアネート、ナフタレンジイソシアネート等がある。これらは、単量体であっても 2量体、 3量体であっても使用することができる。さらに活性なイソシアネート基をフェノール系化合物やカプロラクタム等でブロックし

たブロックイソシアネート類、あるいはポリオールとポリイソシアネートとの反応生成物であって末端にイソシアネート基を有するポリイソシアネート類等も使用することができる。

水酸基（-OH ）を有するフッ素系樹脂とイソシアネート基（-NCO）を有する硬化剤との配合割合は、水酸基（-OH ）とイソシアネート基（-NCO）との当量比で 1： 0.5～1.1 の範囲が好ましく、とくに表面被覆層に柔軟性を付与し、ワイパーブレードの拭き取り性を向上させるためには 1： 0.6～1 の範囲が好ましい。

また、－ＮＨＲ基を有する硬化剤としては、メラミン樹脂を挙げることができる。具体的には、ブチル化メチロールメラミンやヘキサメトキシメチル化メラミンが好適である。

水酸基（-OH ）を有するフッ素系樹脂と－ＮＨＲ基を有する硬化剤との配合割合は、重量比で 6～9 ： 1～4 の範囲がワイパーブレードの拭き取り性を向上させるために好ましい。

本発明に係る四フッ化エチレン樹脂（以下、ＰＴＦＥと略称する）は、テトラフルオロエチレンの重合体をいう。ＰＴＦＥは、塊状重合、溶液重合、懸濁重合、吹込重合、乳化重合等のいずれの重合方法により得られたものも使用できる。

また、これらの方法で得られたバージンＰＴＦＥを一度成形し、熱焼成した後、粉砕して粉末化したいわゆる再生ＰＴＦＥや、バージンＰＴＦＥをガンマ線照射などの方法で処理して粉末化したいわゆるＰＴＦＥ潤滑粉や、バージンＰＴＦＥを粉砕し、微粉末化したＰＴＦＥ粉等が好ましく使用できる。

ＰＴＦＥの平均粒径は 30 μm 以下であることが好ましく、とくに表面被覆層の層厚や表面粗さを均一にするためには、 15 μm 以下であることが好ましい。ただし、最小粒径は、ＰＴＦＥ粉が凝集を起こさない粒径以上であることが好ましい。

このようなＰＴＦＥ粉の配合量としては、分子内に反応性基を有するフッ素系樹脂 100重量部に対して、70～150 重量部であることが好ましい。70重量部未満であると表面被覆層の潤滑性に劣り、150 重量部を越えるとゴム弾性体との密着性が低下するためである。

本発明に係る有機ケイ素系弾性体は、オルガノシロキサン結合を分子主鎖に有するシリコーンであって、ゴム弾性を示すものをいう。具体的には、メチルシリコーンゴム、ビニルーメチルシリコーンゴム、フェニルーメチルシリコーンゴム、フッ化シリコーンゴムが好ましく、これらに加硫剤等を加えて 150～180 ℃で加硫して粉砕したもの、あるいは、その加硫後にさらに 190～220 ℃で 2次加硫して粉砕したものが好ましい。

有機ケイ素系弾性体の平均粒径は 1～10μm が好ましく、その配合量は分子内に反応性基を有するフッ素系樹脂 100重量部に対して、10～50重量部であることが好ましく、とくに30～50重量部が好ましい。平均粒径が10μm を越えたり、配合量が50重量部を越えたりすると表面被覆層の強度が弱くなり、耐摩耗性が悪くなる。また、平均粒径が 1μm 未満であると表面被覆層への分散性が悪くなり、すべり性や耐摩耗性が低下する。さらに配合量が 10 重量部未満であるとすべり性や耐摩耗性が改善されない。

本発明に係る固体潤滑材は、表面被覆層に配合することにより、すべり性や耐摩耗性を向上させることのできる固体粉末であれば使用することができる。具体的には、グラファイト（黒鉛）、二硫化モリブデン（ MoS_2 ）、カーボン、窒化ホウ素、フッ化黒鉛、二硫化タングステン等を挙げることができる。これらは単独でも混合物としても使用することができる。

これら固体潤滑材の中で、とくにグラファイト（黒鉛）および二硫化モリブデンが好ましい。グラファイト（黒鉛）は、人造グラファイト、天然グラファイトのいずれであってもよい。固体潤滑材の平均粒径は 0.5～12μm が好ましい。平均粒径が12μm を越えると耐摩耗性が低下し、平均粒径が 0.5μm 未満では表面被覆層への分散性が悪くなる。

固体潤滑材の配合量は、すべり性や耐摩耗性の改善、さらにはワイパーブレードのビビリ振動を抑え、拭き取り性を改善する上で大きな影響をおよぼす。

固体潤滑材は、分子内に反応性基を有するフッ素系樹脂 100重量部に対して、10～110 重量部配合する。なお、固体潤滑材としてグラファイトを使用する場合にあっては、25～ 65 重量部配合することが、ビビリ振動を抑え拭き取り性を改善する上でとくに好ましい。配合量が110 重量部を越えると耐

摩耗性が悪くなる。また、 10 重量部未満であると、すべり性や耐摩耗性が改善されず、さらにビビリ振動が起きやすくなる。とくに撥水性処理を施した透光体表面、たとえばガラス表面に対してビビリ振動が起きやすくなる。

なお、ビビリ振動と表面被覆層状態との関連を調査したところ、後述するワイパーブレード試験において優れた特性を示した本発明に係る表面被覆層は、ワイパーブレードの長さ方向に横縞がみられた。

本発明に係る透光体とは、光を透過する透明な物質をいう。透明な物質としては、板ガラス、強化ガラス、合わせ板ガラスなどのガラス類や透明アルミナなどの透明セラミックス類、アクリル樹脂などの透明プラスチックス類を挙げることができる。

また、撥水処理を施すとは、たとえばシリコーン系やフッ素系の撥水剤で処理することをいう。シリコーン系の撥水剤は、たとえばガラス面に塗り込むタイプやウインドウオッシャー液タイプがあり、前者の例としては「スーパーレインX」、「スーパーレインX　ｐｌｕｓ」（以上錦之堂社より市販されている商品名）、「ソフト９９ガラコ」、「ぬりぬりガラコ」（以上ソフト９９社より市販されている商品名）等があり、後者の例としては、「スーパーウオッシャーゼット」（アウグ社より市販されている商品名）、「ガラコウオッシャー液」（ソフト９９社より市販されている商品名）等がある。

フッ素系の撥水剤の例としては、「超ガラコ」（ソフト９９より市販されている商品名）、「日産撥水システム」（日産自動車社より市販されている商品名）等のガラス面に塗り込むタイプを例示することができる。

これらの撥水処理層は、 1層ある場合でもワイパーブレードのビビリ振動を起こしやすくなる。

本発明に係る表面被覆層は、上述の本発明の効果を損なわない範囲で各種の配合剤を配合することができる。

そのような配合剤の例としては、マイカ、タルク、カオリン、炭酸カルシウム、硫酸カルシウム等の無機充填剤類、ポリアミド樹脂、ポリイミド樹脂、ポリアミドイミド樹脂、ポリエーテルイミド樹脂、ポリフェニレンサルファイド樹脂、ポリエチレン、ポリプロピレン等のポリオレフィン樹脂、ポリアセタール樹脂、芳香族ポリエステル樹脂、芳香族ポリエーテルケトン樹脂、

芳香族ポリエーテルエーテルケトン樹脂、ポリウレタン樹脂等の樹脂類、フッ素ゴム、ウレタンゴム、ポリエチレン系ゴム、ポリブタジエンゴム、熱可塑性エラストマー等のゴム類、チタン酸カリウム繊維、ガラス繊維、炭素繊維、ホウ酸アルミニウムウィスカー、ウォラストナイト、アラミド繊維等の繊維類などを挙げることができる。

表面被覆層を形成するための被膜形成液は、分子内に反応性基を有するフッ素系樹脂と、硬化剤と、さらに、四フッ化エチレン樹脂や有機ケイ素系弾性体、固体潤滑材との混合物を有機溶媒等に溶解または分散させて得られる。ここで、混合物の混合方法は、フッ素系樹脂に予めＰＴＦＥ、有機ケイ素系弾性体、各種の配合剤を混合しておいて、それと硬化剤とを混合する方法、ＰＴＦＥ、有機ケイ素系弾性体、各種の配合剤を予めミキサーで混合して、その混合物とフッ素系樹脂とを混合後、さらに硬化剤を混合する方法、フッ素系樹脂を含めすべての配合剤を一度に混合する方法等、種々の方法をとることができる。

本発明に係るワイパーブレードについて図１により説明する。図１はワイパーブレードの断面図を示す。

図１において、ワイパーブレード１は、ガラス面と摺接する摺接部２と、ワイパーの固定部に固定される固定部３とから構成され、ブレード本体の両側面となる摺接部２の表面に表面被覆層４が形成されている。なお、ワイパーブレード先端面５には表面被覆層が形成されていない。このような形状とすることにより、本発明に係るワイパーブレード１は撥水処理を施したガラス表面においても、ビビリ振動を起こすことなく優れた拭き取り性を示し、この優れた性質はフッ素系樹脂 100重量部に対して固体潤滑材 10 ～110 重量部含有してなる表面被覆層とすること等により、さらに向上する。

ブレード本体の表面に形成される表面被覆層の形成方法はブレード本体の表面に平滑で均一に形成できる方法であればとくに制限されない。たとえば、スプレー法、ディッピング法、刷毛塗り法等の方法を採用することができる。これらの方法において、上述の混合物は、トルエン、ソルベントナフサなどの芳香族類、アセトン、メチルエチルケトンなどのケトン類、酢酸メチル、酢酸エチル、酢酸イソアミル、酢酸ブチルなどのエステル類、ジエチルエー

テル、ジオキサンなどのエーテル類等の有機溶媒に溶解または分散させて得られる。

表面被覆層は、ブレード本体の表面に塗布後、温度 30 ～100 ℃で 5分～48時間熱処理を施し硬化させることにより得られる。熱処理条件は、温度 70 ～ 90 ℃で 5～15分が生産性を向上させるため好ましい。

ブレード本体の両側面に形成される表面被覆層の形成方法について図２Ａおよび図２Ｂにより説明する。図２Ａおよび図２Ｂは本発明に係るワイパーブレードの製造方法の一例を示す図である。分離されていない 2個のブレード本体６の両側面に表面被覆層４を形成する（図２Ａ）。ついで、ブレード先端面となる箇所７を切断することにより、ブレード先端面に表面被覆層がないワイパーブレード１を得ることができる（図２Ｂ）。この方法は、ワイパーブレードのエッヂ精度を高めることができるためとくに好ましい方法である。

なお、ブレード先端面５に表面被覆層が形成されない方法であれば、たとえば、ブレード本体全面に被覆層を形成した後、ブレード先端面を切断する方法であってもよい。

表面被覆層の層厚は、 2～50μm であることが好ましく、とくに 3～20μm であることがより好ましい。層厚がこれらの範囲であると、ゴム弾性体よりなるブレード本体との追随性や耐久性に優れる。層厚が薄くなると耐久性に劣り、厚くなると初期拭き取り性が低下する。

実施例、比較例に使用する材料を以下に示す。

１） 水酸基（-OH ）を有するフッ素系樹脂：フルオネートＫ７０２（大日本インキ化学工業社製、商品名）

２） ＰＴＦＥ：ＫＴＬ－８Ｆ（喜多村社製、商品名）

３） 有機ケイ素系弾性体：ＥＬ５５０４（ワッカーケミカルズイーストアジア社製、商品名）の加硫物を粉砕した粉体

４） グラファイト：黒鉛ＣＳＳＰ（日本黒鉛工業社製、商品名）

５） 二硫化モリブデン（ MoS_2 ）：モリコートマイクロサイズ（ダウコーニング社製、商品名）

６） イソシアネート化合物（硬化剤－１）：バーノックＤＮ－９９０Ｓ

（大日本インキ化学工業社製、商品名）

7） メラミン樹脂（硬化剤－2）：ヘキサメトキシメチル化メラミン（大日本インキ化学工業社製）

8） ポリウレタン樹脂：Ｄ６－４３９（大日本インキ化学工業社製、商品名）

9） ウレタン変性エポキシ樹脂：Ｄ－１３６２（ＡＣＲ社製、商品名）

10） ジグリシジルエステル：ＩＰＵ－２２Ｇ（岡村製油社製、商品名）

11） ポリフッ化ビニリデン－１：ＫＦポリマー、タイプＨ（呉羽化学工業社製、商品名）

12） ポリフッ化ビニリデン－２：パラプレンＰ２７ＭＲＮＡＴ（日本エラストラン社製、商品名）

13） 硬化剤－３：ＴＸＡ５２５（富士化成工業社製、商品名）

14） ブレード本体：天然ゴム、スチレンブタジエンゴム（ＳＢＲ）、アクリロニトリルブタジエンゴム（ＮＢＲ）に加硫剤、加硫促進剤、加硫促進助剤、老化防止剤、加工助剤、カーボンブラック等の補強材、増量材等が配合され、ゴム硬度が 60 ° のゴム弾性体を用いた。

実施例１～実施例６

水酸基を有するフッ素系樹脂 100重量部をトルエン 200重量部、メチルエチルケトン 400重量部で希釈して、その溶液中に表１に示す配合割合の原料を混合し、さらに表１に示す配合割合の硬化剤を配合して表面被覆形成液を得た。

図２に示す形状のブレード本体６の両側面にスプレー法にて、上述の表面被覆形成液を塗布し、表１に示した条件で硬化させた。表面被覆層４が形成された後、ブレード先端面となる箇所７を切断することにより、ワイパーブレード１を得た。なお、ワイパーブレードの長さは 500㎜であり、ブレード本体の材質は塩素化処理を施した天然ゴムまたはスチレンブタジエンゴム（ＳＢＲ）であり、表面被覆層の層厚は 8～15μｍ であった。

また、特性評価用試験片として、同様に塩素化処理を施した 150㎜（縦）× 150㎜（横）×2㎜ （厚さ）の大きさの天然ゴムまたはスチレンブタジエ

ンゴム（ＳＢＲ）シートに上述と同様の方法で表面被覆層を形成した。

得られたワイパーブレードおよび試験片を以下に示す方法で評価した。評価結果を表２に示す。

１）エッジオンディスク摺動試験

150mm（縦）× 150mm（横）×2mm （厚さ）のシートを 10mm （縦）× 20mm （横）×2mm （厚さ）の大きさに切断して、図３に示す方法で摺動試験を行った。図３は、ガラス面に対する試験片の摩擦係数と摩耗量を測定するための概要図を示す。

切断された試験片８を 10mm （縦）× 10mm （横）の大きさの治具９に固定し、ガラス面１０に対して 30 ° の傾きを持たせて、試験片８のエッジ部とガラス面そのもの、および撥水処理を施したガラス面との間で、回転数 60 rpm 、荷重 20gの条件でテストを行い摩擦係数と摩耗量を測定した。なお、撥水処理は、市販のシリコーン系撥水剤（スーパーレインX）を塗布することにより行った。

２）ワイパーブレード試験

図１に断面形状を示す長さ 500mmのワイパーブレードを用いて、ガラス表面そのものと、市販のシリコーン系撥水剤（スーパーレインX）を塗布したガラス表面に対して、以下の試験を行った。

（イ）拭き試験（ガラス表面そのもののみを対象）

散水時の拭き残し量を目視により、表３に示す評価基準に基づき評価する。

（ロ）ビビリ試験

初期性能……散水時のビビリ度合いを目視により、表４に示す評価基準に基づき評価する。

経時性能……散水したまま作動させ、表４に示す評価基準点が 3点を切るまでの時間を測定する。なお、経時性能は撥水処理を施したガラス表面のみを対象とする。

（ハ）摩耗試験

散水と止水とを一定時間で繰り返し、この条件下で規定回数作動させた後のエッジ部摩耗量を測定する。

（ニ）負荷試験

散水状態から止水しガラスが乾燥するまでの間で、作動しているワイパーシステムにかかる負荷の最大量を測定する。

（ホ）撥水処理膜の剥離試験

散水させた状態で作動させ、反転部分の撥水処理膜が剥離し始めるまでの時間を測定する。なお、剥離試験は撥水処理を施したガラス表面のみを対象とする。

比較例１

表面被覆層が形成されていない実施例１に用いた天然ゴム製ワイパーブレードおよび特性評価用試験片を用いて実施例１と同様に評価した。評価結果を表２に示す。

比較例２および比較例３

水酸基を有するフッ素系樹脂 100重量部をトルエン 200重量部、メチルエチルケトン 400重量部で希釈して、その溶液中にＰＴＦＥおよび有機ケイ素系弾性体を除いて、表１に示す配合割合の固体潤滑材および硬化剤を配合して表面被覆形成液を得た。この表面被覆形成液を用いて、実施例１と同一の条件方法で、 8～15μm の層厚の表面被覆層を有するワイパーブレードおよび試験片を得た。

得られたワイパーブレードおよび試験片を実施例１と同様に評価した。評価結果を表２に示す。

比較例４

ポリウレタン樹脂 100重量部をメチルエチルケトン 350重量部で希釈して、その溶液中に表１に示す配合割合の原料を混合し、さらに表１に示す配合割合の硬化剤を配合して表面被覆形成液を得た。この表面被覆形成液を用いて、硬化条件を表１に示す条件とする以外は実施例１と同一の条件方法で、 8～15μm の層厚の表面被覆層を有するワイパーブレードおよび試験片を得た。

得られたワイパーブレードおよび試験片を実施例１と同様に評価した。評価結果を表２に示す。

比較例５

ウレタン変性エポキシ樹脂とジグリシジルエステルとを重量比で 6：4 の割合で混合した樹脂 100重量部をメチルエチルケトン 500重量部で希釈して、その溶液中に表１に示す配合割合の原料を混合し、さらに表１に示す配合割合の硬化剤を配合して表面被覆形成液を得た。この表面被覆形成液を用いて、硬化条件を表１に示す条件とする以外は実施例１と同一の条件方法で、 8～15μm の層厚の表面被覆層を有するワイパーブレードおよび試験片を得た。

得られたワイパーブレードおよび試験片を実施例１と同様に評価した。評価結果を表２に示す。

比較例６

ポリフッ化ビニリデン－１とポリフッ化ビニリデン－２とを容量比で 83 ： 17 の割合で混合物 120容量部をジメチルホルムアミド 180容量部で希釈して、その溶液中に表１に示す配合割合の原料を配合して表面被覆形成液を得た。この表面被覆形成液を用いて、硬化条件を表１に示す条件とする以外は実施例１と同一の条件方法で、 8～15μm の層厚の表面被覆層を有するワイパーブレードおよび試験片を得た。

得られたワイパーブレードおよび試験片を実施例１と同様に評価した。評価結果を表２に示す。

比較例７

水酸基を有するフッ素系樹脂 100重量部をトルエン 200重量部、メチルエチルケトン 400重量部で希釈して、その溶液中に表１に示す配合割合の原料を混合し、さらに表１に示す配合割合の硬化剤を配合して表面被覆形成液を得た。この表面被覆形成液を用いて、ゴム弾性体としてアクリロニトリルブタジエンゴム（ＮＢＲ）を用い、硬化条件を表１に示す条件とする以外は実施例１と同一の条件方法で、 8～15μm の層厚の表面被覆層を有するワイパーブレードおよび試験片を得た。

得られたワイパーブレードおよび試験片を実施例１と同様に評価した。評価結果を表２に示す。

表1

配合 *1 ＼ 例	実施例 1	2	3	4	5	6	比較例 1*2	2	3	4	5	6	7
表面被覆層材料													
水酸基を有するフッ素系樹脂	100	100	100	100	100	100	—	100	100	—	—	—	100
ＰＴＦＥ	120	120	130	120	130	—	—	—	—	130	130	—	140
有機ケイ素系弾性体	38	38	—	38	40	40	—	—	—	20	20	—	10
グラファイト	38	38	50	38	—	30	—	50	—	3.5	3.5	15	3.5
二硫化モリブデン	—	—	—		30	80	—	—	50	—	—	—	—
硬化剤－１	12	—	10	12	15	12	—	10	10	60	—	—	12
硬化剤－２	—	25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ポリウレタン樹脂	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100	—	—	—
ウレタン変性エポキシ樹脂	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	60	—	—
ジグリシジルエステル	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	40	—	—
ポリフッ化ビニリデン－１	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	83	—
ポリフッ化ビニリデン－２	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	17	—
硬化剤－３	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	60	—	—
ブレード本体材料													
天然ゴム（塩素化処理有り）	○	○	○	—	○	○	○	○	○	○	○	○	—
ＳＢＲ（塩素化処理有り）	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	NBR
硬化条件													
硬化温度、℃	80	70	80	80	80	80	—	80	80	80	80	100	80
硬化時間、分	15	300	15	15	15	15	—	15	15	30	30	30	30

注） *1） 表面被覆層配合の単位は重量部、ただし比較例６は容量部である。
*2） 比較例１は表面被覆層がない。

表2

項目＼例	実施例 1	2	3	4	5	6	比較例 1	2	3	4	5	6	7
エッジオンディスク摺動試験													
通常ガラス面													
摩擦係数	0.19	0.23	0.25	0.19	0.23	0.25	0.49	0.38	0.39	0.27	0.28	0.41	0.26
摩耗量、mg	1.2	1.3	1.7	1.5	1.8	1.9	6.2	4.7	4.5	2.2	2.2	3.7	2.4
撥水処理ガラス面													
摩擦係数	0.11	0.14	0.17	0.11	0.12	0.18	*1	0.37	0.35	0.25	0.25	0.39	0.23
摩耗量、mg	0.4	0.5	0.9	0.4	0.4	0.8	9.4*2	3.9	4.2	1.4	1.9	4.0	1.3
ワイパーブレード試験													
通常ガラス面													
拭き評価、点	4.0	4.0	4.0	4.5	4.0	4.0	4.0	3.0	3.0	4.0	4.0	3.0	4.0
ビビリ評価、点	4.0	4.0	4.0	4.5	4.0	4.0	4.0	3.0	3.0	4.0	3.0	3.0	4.0
摩耗量、mg	0.48	0.44	0.54	0.50	0.50	0.54	0.54	0.51	0.52	0.45	0.45	0.51	0.45
最大負荷、kg	0.56	0.51	0.61	0.52	0.69	0.69	1.01	0.92	0.99	0.88	0.89	0.91	0.87
撥水処理ガラス面													
ビビリ評価、点	3.5	3.5	3.5	4.0	3.5	3.5	3.5	3.0	3.0	3.5	3.0	3.0	3.5
ビビリ合格点維持時間、H	>8.0	>8.0	>8.0	>8.0	>8.0	>8.0	3.0	4.5	4.2	5.2	5.5	5.6	5.7
摩耗量、mg	0.48	0.52	1.24	0.60	0.77	1.14	3.18	2.74	2.94	1.96	2.11	2.10	1.90
最大負荷、kg	0.56	0.50	0.62	0.51	0.60	0.63	0.65	0.65	0.67	0.64	0.65	0.64	0.64
撥水処理膜剥離開始時間、H	2.0	2.2	2.0	2.4	2.0	2.0	1.0	0.8	0.7	1.1	1.1	1.2	1.1

注) *1) １５時間で測定不可となる。
*2) １５時間での摩耗量。

表3

評価基準点	拭き評価基準内容
5	拭き残しが無い
4	ライン状の拭き残しが散在する
3	中央部以外に薄い拭き残しが発生する
2	数箇所に明瞭な拭き残しが発生する
1	全面に拭き残しが発生する

表4

評価基準点	ビビリ評価基準内容
5	目に見える振動が無い
4	反転時のみに振動して消える
3	全面に小刻みに振動が見える
2	ブレードが跳び、拭き筋が残る
1	ブレードが完全に跳び、大きく跳躍する

表2に示すように、実施例1～実施例6は、比較例1～比較例7に比較して、エッジオンディスク摺動試験およびワイパーブレード試験において優れた性能を有している。

実施例7

実施例1において、図1に示す形状のワイパーブレード1を用いて摺接部2およびブレード先端面5に表面被覆層4を形成する以外は、同一の条件方法でワイパーブレードを得た。実施例7により得られるワイパーブレードの断面図を図4に示す。得られたワイパーブレードを実施例1と同一の条件方法で評価したところ、通常ガラス面に対する最大負荷特性が 0.69 kgであり、撥水処理ガラス面に対しては、ビビリ合格点維持時間が 8時間以上であり、摩耗量が 1.02mg 、撥水処理膜剥離開始時間が 2.0時間であった。

以上説明したように、実施例1～実施例7は、通常ガラス面に対して優れた最大負荷特性を示し、撥水処理ガラス面に対しては、ビビリ合格点維持時

間、摩耗量および撥水処理膜剥離開始時間特性において比較例１～比較例７に比較して優れていた。

産業上の利用可能性

以上説明したように、本発明に係るワイパーブレードは、拭き取り性能、ビビリ性能、耐久性に優れている。

また、水酸基含有フッ素系樹脂と、硬化剤としてイソシアネート化合物およびメラミン樹脂類の少なくとも一つを用い、さらに四フッ化エチレン樹脂、有機ケイ素系弾性体を含有する表面被覆層とすることにより、上述の特性がさらに向上し、とくに撥水処理を施した透光体表面に対する拭き取り性能、ビビリ性能、耐久性に優れたワイパーブレードを得ることができる。

本発明に係るワイパーブレードの製造方法は、表面被覆層を形成後切断するので、ブレード本体の両側面のみに表面被覆層を有しブレード先端面に表面被覆層がなく、かつエッヂ精度を高めたワイパーブレードを容易に得ることができる。

請求の範囲

1. ゴム弾性体よりなるブレード本体と、この本体表面に、分子内に反応性基を有するフッ素系樹脂と、前記反応性基と反応性を有する硬化剤とからなる表面被覆層を有するワイパーブレードであって、

前記表面被覆層は、前記ブレード本体の両側面のみに形成されてなることを特徴とするワイパーブレード。

2. 前記表面被覆層は、前記分子内に反応性基を有するフッ素系樹脂 100 重量部に対して固体潤滑材 10 ～110 重量部配合してなることを特徴とする請求項１記載のワイパーブレード。

3. ゴム弾性体よりなるブレード本体と、この本体表面に、分子内に反応性基を有するフッ素系樹脂と、前記反応性基と反応性を有する硬化剤とからなる表面被覆層を有するワイパーブレードであって、

前記表面被覆層は、前記分子内に反応性基を有するフッ素系樹脂 100重量部に対して固体潤滑材 10 ～110 重量部配合してなることを特徴とするワイパーブレード。

4. 前記反応性基が水酸基であり、前記硬化剤が、イソシアネート化合物およびメラミン樹脂類の少なくとも一つであることを特徴とする請求項１ないし請求項３のいずれか１項記載のワイパーブレード。

5. 前記表面被覆層が、四フッ化エチレン樹脂を含有してなることを特徴とする請求項１ないし請求項４のいずれか１項記載のワイパーブレード。

6. 前記表面被覆層が、有機ケイ素系弾性体を含有してなることを特徴とする請求項１ないし請求項４のいずれか１項記載のワイパーブレード。

7. 前記固体潤滑材が、グラファイトであることを特徴とする請求項２または請求項３記載のワイパーブレード。

* C L M S *

8. 前記表面被覆層が、少なくとも 1層の撥水処理を施した透光体表面と摺接することを特徴とする請求項１ないし請求項７のいずれか１項記載のワイパーブレード。

9. ワイパーブレードの幅方向に複数個連続してブレード本体を形成する工程と、

このブレード本体の表面に表面被覆層を形成する工程と、

前記表面被覆層が形成されたブレード本体をワイパーブレードの長さ方向に平行に切断する工程とを有することを特徴とする請求項１記載のワイパーブレードの製造方法。

* C L M S *